

トホクのレタス栽培方法

発芽適温：20℃前後 生育適温：15～20℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

1. 作物特性

レタスは暑さにも寒さにも弱く栽培できる時期が限られますが、害虫がつきにくいので、タネまきの時期さえ間違えなければとても作りやすい野菜です。土のはね返りを防ぐためにマルチを使った栽培がおすすめです。リーフレタス、玉レタス、サラダ菜、また焼き肉を包むサンチュなど様々な種類がありますが、栽培の基本は同じです。用途に合わせた品種で新鮮なレタスを食卓で味わえるのは家庭菜園ならではの楽しみです。

2. タネまき

発芽がデリケートなので、ポットで育苗して植えつけるのが一般的です。直径9cm位のポットに深さ5mm位の深さに数粒ずつタネをまきます。気温が高いと発芽しにくいので、タネまき後2日間ほど軒下などの涼しい場所で管理します。水やりはタネが水で流されることのないよういねいにやります。レタスは発芽に光が必要な好光性種子ですから土かけは極めて薄くします。園芸用の小粒バーミキュライトを利用すると便利です。



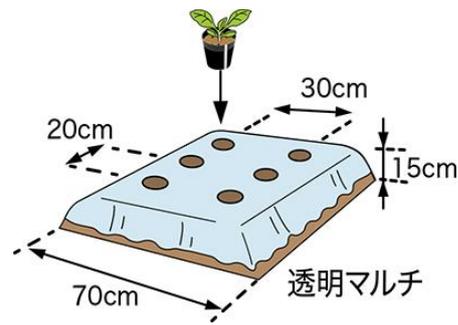
本葉が出たら生育の良い株を残して間引きをします。本葉5～6枚になったら植えつけます。

セルトレーにタネをまいて育苗した場合は本葉3枚位が植えつけの適期です。若苗の方が速やかに活着します。



3. 畑の準備・植えつけ

レタスは根が浅く、ほとんどが地表面近くにあるため環境変化に敏感です。肥効や土壌水分の急激な変化を防ぎ生育をスムーズに進めるためには、マルチ栽培がおすすめで、条間30cm、株間20cmが適当です。



生育初期が低温の春まき栽培では地温を上げるために透明マルチや黒マルチを使います。反対に秋播き栽培では地温を下げる白黒ダブルマルチやシルバーマルチを用います。植えつけは天気がよい日を選び、その後しっかりと水をやりましょう。

植えつけは天気がよい日を選び、その後しっかりと水をやりましょう。

4. 栽培管理・収穫

レタスは病気や害虫の少ない野菜です。ただし過湿になると株が腐りだします。畑の水はけを良くすること



や、マルチを使って土のはね返りを防ぐことが有効です。なお株の状態をみて肥料が切れているようなら株元に化成肥料を少量追肥します。



リーフレタスは適度に育ったところで外葉から少しずつかき取れば、繰り返し収穫できます。

玉レタスは硬くすると食味が悪くなります。玉の頭を手のひらで軽く押さえて少し弾力がある8割結球くらいを目安に収穫しましょう。



栽培例	まく時期			収穫期			トンネル					
地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												

(翌年)